2021 年度国公立大志願状況

河合塾

2021/2/25

国公立大の確定志願者数が 24 日に文部科学省から発表された。総志願者数は 425,415 人、志願倍率は 4.3 倍であった。以下、発表された国公立大の出願状況について概況をまとめた。

■志願者数は前年から約１万４千人減少、志願倍率もダウン

国公立大一般選抜の総志願者数は 425,415 人と前年から約１万４千人減少した。募集人員に対する志願倍率は前年の 4.4 倍から 0.1 ポイントダウンの 4.3 倍となった【表１】。

【表1】国公立大志願状況

区分	日程	募集人員(A)		志願者数(B)				志願倍率(B/A)	
		20 年度	21 年度	20 年度	21 年度	前年差	前年比	20 年度	21 年度
国立大学	前期	63,828	63,716	182,772	177,178	−5,594	97%	2.9	2.8
	後期	14,168	13,201	124,420	118,753	−5,667	95%	8.8	9.0
	計	77,996	76,917	307,192	295,931	−11,261	96%	3.9	3.8
公立大学	前期	16,223	16,210	60,280	58,225	−2,055	97%	3.7	3.6
	後期	3,572	3,487	40,667	42,168	+1,501	104%	11.4	12.1
	中期	2,355	2,364	31,426	29,091	−2,335	93%	13.3	12.3
	計	22,150	22,061	132,373	129,484	−2,889	98%	6.0	5.9
国公立大学計	前期	80,051	79,926	243,052	235,403	−7,649	97%	3.0	2.9
	後期	17,740	16,688	165,087	160,921	−4,166	97%	9.3	9.6
	中期	2,355	2,364	31,426	29,091	−2,335	93%	13.3	12.3
	計	100,146	98,978	439,565	425,415	−14,150	97%	4.4	4.3

※文部科学省資料より
※分離・分割方式ではなく独自日程で実施する大学は上表には含まれない

国公立大入試の中心となる前期日程の志願者数は 235,403 人（前年比 97%）となった。志願者は２年連続で減少、過去最少の志願者数注を更新した。また、志願倍率は初めて３倍を割り込んだ。ただし、国公立大の敬遠を示す数字ではない。18 歳人口の減少により、大学志願者数自体の減少が見込まれており、国公立大の志願者減もその影響が大きい。【表２】は、大学所在地区別の志願状況をまとめたものである。北陸、東海地区では志願者が増加したほか、近畿地区は前年並みの志願者数となった。一方で北海道や北関東、甲信越地区は前年から１割近く減少した。

後期日程の志願者数は前年比 97%と減少率は小幅となった。今春も後期日程の廃止・縮小は進んでいるものの、共通テストの平均点が理系を中心にアップしたことから、後期日程まで視野に入れて出願した様子がうかがえ、倍率はアップした。

今春は共通テスト実施初年度であることに加え、新型コロナウイルス感染症による影響で出願直前まで選抜方法等の変更が発表されるなど、例年にないイレギュラーな年となった。こうした状況は志願動向にも影響を及ぼした。

２次試験の中止を発表した横浜国立大では前期日程の志願者数が前年比 66%と大幅に減少、同様に２次試験を中止した宇都宮大（同 86%）、信州大（人文：同 71%、経法：同 83%）、山陽小野田市立山口東京理科大（同 52%）なども志願者が減少した。これらの大学は一部を除き、共通テストの成績でほぼ合否が決まるため、共通テストの成績に不安がある受験生を中心に出願を避けられたとみる。

【表2】国公立大（前期日程）地区別志願状況

地区	20 年度	21 年度	前年差	前年比
北海道	12,584	11,552	−1,032	92%
東北	19,376	18,381	−995	95%
北関東	13,108	11,829	−1,279	90%
南関東	48,741	46,734	−2,007	96%
甲信越	12,213	11,057	−1,156	91%
北陸	10,221	10,873	+652	106%
東海	21,057	21,467	+410	102%
近畿	39,697	39,520	−177	100%
中国	22,872	22,143	−729	97%
四国	11,000	10,373	−627	94%
九州	32,183	31,474	−709	98%

※文部科学省資料より
※北関東：茨城・栃木・群馬　南関東：埼玉・千葉・東京・神奈川

注：前期日程と連続方式Ａ日程の両方を実施していた期間（1989～1998 年度入試）は、Ａ日程志願者数を含む

© Kawaijuku Educational Institution.

■系統別の志願状況

【表３】は国公立大の前期日程の志願状況を、学部系統別に集計したものである。

国公立大全体の前年比97％を基準に各系統の前年比を確認したい。文系では「文・人文」学系の減少率がやや高くなった一方、前年入試で１割減となった社会科学系では「社会・国際」「経済・経営・商」の減少率が小幅に留まった。また、「教育－教員養成課程」も地元志向や資格系統の人気を反映して減少率は小幅に留まっている。

理系は「理」学系で前年並みの志願者が集まっており、堅調な人気を示した。医療系は「歯」を除き志願者が増加しており、なかでも「薬」は前年から１割近く増加した。

【表3】国公立大（前期日程）学部系統別志願状況

系統	募集人員（A）		志願者数（B）				志願倍率(B/A)	
	20年度	21年度	20年度	21年度	前年差	前年比	20年度	21年度
文・人文	7,038	7,103	21,946	20,579	−1,367	94%	3.1	2.9
社会・国際	3,969	3,989	12,939	12,810	−129	99%	3.3	3.2
法・政治	4,158	4,136	12,796	12,219	−577	95%	3.1	3.0
経済・経営・商	8,119	8,155	25,758	25,154	−604	98%	3.2	3.1
教育－教員養成課程	7,172	7,027	17,606	17,333	−273	98%	2.5	2.5
教育－総合科学課程	838	827	2,122	1,905	−217	90%	2.5	2.3
理	4,907	5,115	14,036	14,003	−33	100%	2.9	2.7
工	22,834	22,570	66,976	64,629	−2,347	96%	2.9	2.9
農	5,657	5,529	15,469	14,996	−473	97%	2.7	2.7
医・歯・薬・保健	10,539	10,690	34,762	35,236	+474	101%	3.3	3.3
医	3,589	3,601	14,741	14,876	+135	101%	4.1	4.1
歯	452	458	1,657	1,595	−62	96%	3.7	3.5
薬	752	825	2,620	2,851	+231	109%	3.5	3.5
看護	3,931	3,931	10,323	10,423	+100	101%	2.6	2.7
医療技術・他	1,815	1,875	5,421	5,491	+70	101%	3.0	2.9
生活科学	788	800	2424	2492	+68	103%	3.1	3.1
芸術・スポーツ科学	1582	1552	7354	6722	−632	91%	4.6	4.3
総合・環境・人間・情報	2523	2456	8915	7425	−1,490	83%	3.5	3.0

※河合塾調べ（大学発表の数値と文部科学省発表の数値が異なる大学は大学発表値を優先）
※系統の分類は河合塾による

以下に、主な系統について確認していく。なお、文中の志願者数・前年比は特に記載がない場合、前期日程を表す。

［文・人文学系］

系統全体の志願者数は前年比 94％で、他系統と比較しても、減少率がやや高くなった。前年入試で志願者が大きく増加した富山大（人文）や神戸大（文）などをはじめ、信州大（人文）、京都府立大（文）、奈良女子大（文）などで高い減少率となった。分野別にみると、とくに外国語系や地域・国際系の分野で志願者が減少した。新型コロナウイルス感染症の影響で大学生の海外留学の延期や期間短縮などが話題となった中、受験生がこうした分野の学部・学科の出願を避けたとみられる。

［社会科学系（社会・国際、法・政治、経済・経営・商）］

社会科学系全体の志願者数は前年比 97％と国公立大全体と同率となった。前年入試では各系統とも１割前後志願者が減少しており、各大学の状況をみても各所でその反動がみられる。

「社会・国際」の志願者は前年比 99％と前年並みとなったが、国公別でみると国立大は前年比 94％と減少した。一橋大（社会）や東京外国語大（国際社会）など比較的規模の大きい大学で志願者が減少したことが要因とみる。公立大は前年比 103％と志願者がやや増加しているが、これは島根県立大が学部を改組し、新たに地域政策、国際関係学部を新設したことが影響しており、倍率に変化はない。また、分野でみると、社会福祉系では志願者が増加しており、人気を集めている。

「法・政治」の志願者は前年比 95％とほかの２系統と比べると減少が目立つ。高崎経済大（地域政策）、東京大（文科一類）や京都大（法）、大阪市立大（法）など、規模の大きい大学で志願者の減少が目立った。

「経済・経営・商」の志願者は前年比 98％となった。前年大きく志願者が減っていた金沢大（人間社会－経済）や静岡大（人文社会科学－経済）などは志願者が大きく増加した。新設の岐阜大（社会システム経営）では、志願倍率は 5.5 倍と「経済・経営・商」全体の志願倍率より高くなった。

［自然科学系（理、工、農）］

自然科学系全体の志願者数は前年比 97％とこちらも国公立大全体と同率となった。

「理」の志願者は前年比 100％と前年並みとなった。茨城大（理）や信州大（理）、鹿児島大（理）などで志願者が大きく増加、京都大（理）や神戸大（理）、九州大（理）などの難関大でも志願者は増加した。

河合塾
© Kawaijuku Educational Institution.

「工」の志願者は前年比は96%となったが、改組となった神戸大（海洋政策科学）や岡山大（工）、九州大（工）では志願者がそれぞれ増加、このほか公立千歳科学技術大（理工）、兵庫県立大（工）、山口大（工）、鹿児島大（工）などは志願者が大きく増加した。秋田大（理工）も志願者は１割増加したが、２次試験の配点が高いｂ方式で志願者が増加した。同様に新潟大（工）でも、今年度より共通テスト重視型と個別学力試験重視型の２方式で選抜が行われるが、志願倍率では個別学力試験重視型が4.3倍と共通テスト重視型(同1.5倍)より高くなった。一方、前年入試で大幅に志願者が増加した室蘭工業大（理工－昼間）、公立諏訪東京理科大（工）などは前年から半数近く志願者が減少した。

「農」の志願者は前年比は97%となった。共通テスト、２次試験ともに科目負担が増えた信州大（農）では３年連続の志願者減となった。また、分野別でみると獣医系では志願者が増加しており、帯広畜産大（畜産－共同獣医）、東京農工大（農－共同獣医）、大阪府立大（生命環境科学－獣医）などが前年を上回る志願者を集めた。

［医療系（医・歯・薬・保健）］

医療系全体の志願者数は前年比101%と前年並みの志願者数となった。分野別にみても「歯」を除く各分野で志願者が増加、もしくは前年並みとなっている。

「医」の志願者は前年比101%と前期日程では７年ぶりに増加に転じた。後期日程を廃止して募集人員増となった香川大や愛媛大は前年に引き続き志願者が増加、このほか前年入試の反動で福島県立医科大や徳島大、長崎大などは志願者が３割以上も増加した。

「薬」の志願者は前年比 109%と大きく増加した。和歌山県立医科大（薬）が新設された影響が大きいが、それを差し引いても前年以上の志願者が集まっており、人気の高さがうかがえる。

「看護」「医療技術・他」の志願者はそれぞれ前年比101%となった。「医療技術・他」は福島県立医科大（保健科学）の新設による影響で志願者が増加した。「看護」では地元志向の強まりもあり、とくに公立大で志願者が増加した。

［その他］

「総合・環境・人間・情報」の志願者は前年比83%と減少が目立った。これは、これまで「総合」分野で集計をしていた島根県立大の総合政策学部が改組され、改組後の地域社会学部と国際関係学部を社会科学系に含めた影響が大きい。「総合」は金沢大（融合）が新設されたものの、岩手県立大（総合政策）、徳島大（総合科学）など前年入試の反動で志願者減となった大学が多く、分野全体で志願者は減少となった。「情報」の志願者は前年比100%と前年並みとなった。今春改組した群馬大（情報）では従前の社会情報学部に比べ募集人員が大きく増えたこともあり、志願者は前年比123%と大きく増加した。このほか、横浜市立大（データサイエンス）や名古屋大（情報）なども志願者が増加した。

■難関国立大の志願状況

【表４】は旧帝大を中心とした難関 10 大学の志願状況を前期日程・後期日程でまとめたものである。

難関 10 大学全体では、前期日程は 54,880 人（前年比99%）と前年並みとなった。大学別にみても、５大学は志願者が増加しており、とくに神戸大は前年比111%と１割以上増加した。前期日程全体の志願者が減少しているなか、今年の受験生が積極的に難関大に挑戦した様子がみられる。

以下、難関 10 大学の状況を個別にみていく。

【表4】国立難関 10 大学の志願状況

大学名	前期日程				後期日程			
	20 年度	21 年度	前年差	前年比	20 年度	21 年度	前年差	前年比
北海道	5,474	5,104	−370	93%	4,278	3,517	−761	82%
東北	4,384	4,499	+115	103%	1,354	1,251	−103	92%
東京	9,259	9,089	−170	98%	—	—	—	—
東京工業	3,790	3,638	−152	96%	512	—	−512	—
一橋	2,490	2,564	+74	103%	1075	1036	−39	96%
名古屋	4,422	4,581	+159	104%	55	54	−1	98%
京都	7,347	7,045	−302	96%	352	379	+27	108%
大阪	7,462	6,991	−471	94%	—	—	—	—
神戸	5,569	6,194	+625	111%	3,746	4,042	+296	108%
九州	5,014	5,175	+161	103%	2,227	2,454	+227	110%
難関 10 計	55,211	54,880	−331	99%	13,599	12,733	−866	94%
その他大計	187,841	180,523	−7,318	96%	151,488	148,188	−3,300	98%

※文部科学省資料より
※「その他大計」は難関 10 大を除いた国公立大計

河合塾
© Kawaijuku Educational Institution.

［北海道大学］

前期日程の志願者数は前年比 93％と減少、過去 20 年で最少となった。文系学部では前年の反動が顕著な学部が目立つ。前年入試で志願者が増加した総合入試文系では２割減となった一方、前年入試で志願者が減少した教育、法学部では今春は志願者が大きく増加した。理系学部では各学部・選抜とも志願者が減少、総合入試理系と獣医、水産学部は前年に続き志願者が減少した。

後期日程の志願者も前年比 82％と減少、こちらも過去 20 年で最少となった。理、水産学部では志願者が増加したものの、前年入試で１割以上増加した経済、農学部では志願者が３割以上減少した。

［東北大学］

前期日程の志願者は前年比 103％と３年ぶりに増加に転じた。多くの学部で、前年入試の反動による志願者の増減がみられる。文、法学部は前年入試の反動もあり、それぞれ志願者が１割以上減少した。教育学部も含め募集人員が減員となったことも要因だろう。一方、経済、工、農、薬学部、医学部保健学科では志願者が増加した。いずれも前年入試の反動が出ている。

後期日程では、前期日程同様、経済学部で志願者は増加、理学部で減少した。理学部は前年入試でも減少していたが、第１段階選抜の予告倍率が 20 倍から 10 倍に引き上げられたことや、新たに面接が課されることから敬遠されたとみる。

［東京大学］

大学全体の志願者数は前年比 98％となった。今春は既卒生が前年から２割ほど減少しており、例年志願者の３分の１を既卒生が占める東京大では志願者減少が予想されていた。しかし、志願者数は微減にとどまっており、現役生が積極的に挑戦した様子がみられる。

科類別でみると、文科類では文科一類・二類で志願者数が前年から１割減となった。唯一志願者が増加した文科三類は前年まで４年連続で志願者が減少していたことに加え、前年の第１段階選抜ラインが６割台と低かったことが志願者を集めた要因だろう。理科類では、理科一類・二類で前年並みの志願者数となった一方、理三では志願者は約１割減少した。理科三類志願者数が 400 人を割り込んだのは 2003 年度入試以来、18 年ぶりとなった。

［東京工業大学］

前期日程の志願者数は前年比 96％とやや減少した。学院別では生命理工学院を除く全学院で志願者は減少した。とくに環境・社会理工学院は前年比 87％と前年に続き高い減少率となった。生命理工学院は志願者が増加したが、今春より後期日程が廃止により前期日程の募集人員が増員となったため、志願倍率は 2.2 倍（前年 2.3 倍）とむしろ前年から低下した。各学院の志願倍率をみると、今春も情報理工学院が 8.8 倍と群を抜いて高く人気がうかがえる。生命理工学院が最も低倍率なのも例年どおりであった。

［一橋大学］

前期日程の志願者数は前年比 103％と３年ぶりに増加に転じた。学部別にみると、法（前年比 105％）、経済学部（同 129％）で志願者が増加した一方、社会（同 93％）、商学部（同 93％）では志願者は減少した。経済学部は前年度の志願者が前年比 78%と大きく減少していた反動もあり、今春は前年から約３割増加した。商学部は２年連続の志願者減となった。

経済学部のみで実施される後期日程では、志願者数は前年比 96％と減少した。こちらは３年連続の減少となった。

［名古屋大学］

前期日程の志願者数は前年比 104％と増加した。前年は医学部を除く全学部で志願者が減少したこともあり、多くの学部がその反動で志願者増となった。文、法学部では志願者がそれぞれ約１割の増加となった。この２学部は、前年入試の志願倍率が低倍率だったことで、受験生にねらい目と映ったようだ。医学部医学科では前年比 117％と２年連続の志願者増となった。情報学部では前年比 116％と増加、前年入試で志願者が減少した自然情報、人間・社会情報学科で増加した一方、コンピュータ科学科では減少に転じた。

医学部医学科のみで実施される後期日程は前年比 98％と前年並みとなった。

河合塾

© Kawaijuku Educational Institution.

［京都大学］

前期日程の志願者数は前年比 96%、2013 年度をピークに８年連続の減少となった。教育、法、経済、理、工学部では近年隔年現象が顕著で、今春は教育、理学部で志願者が増加、法、経済、工学部では減少した。工学部では総合評価に利用する共通テストの地公の配点割合が高く、多くの理系生が選択する地理Ｂの平均点が大きくダウンしたことも志願者減の一因とみる。学科でみると、前年入試で志願者の増加率が高かった情報学科の志願者減が目立った。このほか、前年まで４年連続で志願者減となっていた総合人間学部、２年連続で志願者減となっていた医学部医学科では志願者が増加に転じた。なお、総合人間学部では文系で志願者が増加、一方の理系は志願者が減少した。理系は総合評価に利用する共通テストの教科が地公のみであり、工学部同様、地理Ｂの平均点ダウンが志願者減につながったとみる。

後期日程で実施される法学部特色入試の志願者は、前年入試で３割以上減少したことによる反動で今春は、前年比 108%と増加した。

［大阪大学］

前期日程の志願者数は前年比 94%と３年連続の志願者減となった。経済学部では２年連続で志願者が１割以上減少した。このほか、外国語、医学部でも１割以上減少した。工学部と基礎工学部は近年、志願者数の増減が相反しており、今春は工学部で前年比 92%と減少、基礎工学部では同 113%と増加した。全国的に人気の薬学部は第１段階選抜の予告倍率が狭まったことや、２次試験で小論文と面接が新規で実施されることが警戒され、志願者が前年比 67%と大きく減少した。今春より２段階選抜を新規実施する人間科学部は前年比 98%と概ね前年並みの志願者が集まった。

［神戸大学］

前期日程の志願者数は前年比 111%と大きく増加、志願者が６千人を超えたのは 2011 年度以来 10 年ぶりとなる。近畿圏内の京都大、大阪大は志願者が減少しており、これらの大学を敬遠した受験生が集まったことも一因とみられる。理系学部の志願者増が目立ち、その多くが１割以上の増加となった。理学部は前年比 110%と３年連続の志願者増となったが、学科別にみると、前年入試の反動で志願者が増減した。工学部は前年比 130%と大幅に増加、なかでも情報知能工学科は前年の２倍近い志願者が集まった。海事科学部から改組した海洋政策科学部は、新たに文系生も受験可能となったこともあり志願者は前年比 131%と大きく増加した。文系学部でも前年入試で志願者が減少した経済（前年比 106%）、国際人間科学部（同 117%）では志願者が増加した。

後期日程の志願者数も前年比 108%と増加した。前期日程同様、理学部などで志願者が前年から約１割増加したほか、前期日程では志願者が減少していた文、法学部でも志願者が増加した。

［九州大学］

前期日程の志願者数は前年比 103%と増加した。教育、理、工、芸術工、歯、共創学部では前年入試の反動で志願者が減少していたが、今春は増加に転じた。なかでも設置４年目となる共創学部では過去最多の志願者数となった。学科を改組した工学部は前年比 101%と前年並みの志願者が集まった。前年に学科を改組した芸術工では、学科一括入試の志願者が大幅に増加したものの、コース別の志願者数は前年並みもしくは減少した。志願倍率をみても、学科一括入試が最も高くなった。

後期日程の志願者数は前年比 110%と前期日程以上に増加した。とくに経済、薬学部で大きく志願者が増加した。工学部でも志願者は増加した。志願倍率は、入学時に学科群を特定しないⅥ群が最も高くなった。

大学別の国公立大の出願状況は河合塾入試情報サイト Kei-Net（※）にて閲覧が可能となっているのでご活用いただきたい。

※Kei-Net 国公立大出願状況：https://www.keinet.ne.jp/exam/entry/index.html

河合塾

© Kawaijuku Educational Institution.